

感染症についてのお知らせ



つながる
墨田区

墨田区保健所 保健予防課 感染症係 区役所3階
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

平成30年
10月号

東京都内の感染症流行情報

都内では伝染性紅斑の報告数は高いレベルが続いています。
RSウイルスおよび手足口病の報告数が都内一部の地域で増えています。
風しんの報告数が、30歳から50歳代の男性を中心に増えています。

感染症のおしらせ

結核は昔の病気ではありません。
年に1度は定期健康診断・胸部エックス線検査」を受けましょう。

平成28年に都内であらたに結核と診断された方は 2,340人おりました。その数は全国の中でも高い状況です。また、患者のうちの4割を70歳以上の高齢者が占めており、東京都ならびに国からも結核早期発見のため「定期健康診断(胸部エックス線検査を含む)」を受けていただくよう呼びかけています。

かつて日本は「結核は国民病」といわれる時代がありました。最近では、その時代に気づかないうちに結核にかかった方が、高齢化に伴う免疫力の低下から発病するケースが多くみられています。また、高齢者の場合、結核にかかっても病気特有の「咳や痰」という症状ではなく「微熱や体重減少」という症状で経過する場合があります。結核を発病していても気が付かないことがあります。このため、年に1度は定期健康診断・胸部エックス線検査を受けて結核の早期発見をしましょう。

また、30歳から59歳の年代の働き盛りでは、咳などの症状があっても受診が遅れる傾向がみられています。働き盛りの方もより元気で働くために「年に1度の定期健診・胸部エックス線検査」をお願いいたします。

健診は墨田区から「特定健康診査」「75歳以上の健康診査」「生活習慣病予防検査」のご案内が届いている方は、是非実施期間内にご利用ください。また、会社の健康保険に加入している方(被扶養者を含む)は勤務先、または加入の保険者にお問い合わせ下さい。



風しんの報告数が増えています。

本年7月以降、30歳から50歳代の男性を中心に風しんの報告数が増えています。昨年の風しん報告数は都内で22件、全国は93件でしたが、本年は9月末までに都内239件、全国では770件報告されています。

<風しんとは>

風しんは風しんウイルスによる感染症です。風しんウイルスの感染経路は「飛沫感染」で人から人へ感染が広がります。感染後2～3週間(平均16日～18日)たつてから発熱、発疹、リンパ節の腫脹が出現します。発熱は患者全体の半分にみられる程度ですが、大人では高熱や発疹が長く続いたり、関節痛を認めたり、小児より重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院が必要となることもあり、決して軽視できない病気です。

風しんに対する免疫を持たず妊娠中(特に妊娠初期)に感染した場合、胎児が風しんウイルスに感染し、白内障、先天性心疾患、難聴などを持った赤ちゃん(先天性風しん症候群)が生まれることがあります。

<大人の風しん抗体検査と予防接種費用の助成を行っています>

墨田区は、先天性風しん症候群の予防のため、妊娠を予定または希望している女性とそのパートナー(妊婦の夫を含む)を対象に風しん抗体検査と予防接種の費用助成を行っています。お申込み、お問い合わせは、墨田区保健所保健予防課感染症係までお願いします。

<風しんの予防接種を受けましょう>

有効な予防は予防接種です。

定期予防接種として、麻しん・風しん混合ワクチン(MRワクチン)を接種します。標準的な接種期間は、以下のとおりです。まだ、予防接種を受けられていない方は早めに受けましょう。

1期 1歳以上2歳未満

2期 5歳から7歳未満で小学校就学前1年間

定期接種期間を過ぎた場合でも、18歳以下の方については接種費用の公費負担を行っていますので、ご希望の方は墨田区保健所保健予防課感染症係までお問い合わせください。

お問い合わせ・お申込み

墨田区保健所保健予防課感染症係

電話 03-5608-6191

このお知らせは、東京都感染症情報センター(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>) の情報及び東京都健康安全研究センターが集計を行った「東京都感染症発生動向調査週報」(<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/epidinfo/>) を基に作成しています。